

## 与論島の活性化のために

農学部国際食料資源学特別コース 1年

3416410113 東 弘菜

私は今回の講義で初めて与論島を訪れた。映画の影響でこの島については知ってはいたが全国的にこの島について知っている人は少ないのではないかと思う。与論は自然豊かで観光資源に恵まれている島だ。それらの島の魅力を生かした観光を中心に農業、漁業がこの島の主な産業である。きれいな海に囲まれ、ゆっくりとした時間が流れるこの島では、少子高齢化、農業・水産業の人手不足、若者の雇用先不足などの問題を抱えている。私は与論島に4日間滞在し、実際に見たことや聞いたことを元に自分なりに与論の活性化について3つの観点から考えた。

1つ目は、観光客への情報提供である。与論には1978年に15万人もの観光客が訪れたが以降減少をたどった。近年は、多くのメディアが百合が浜を取りあげたこともあり、観光客数は徐々に増加している。メディアでは主に百合が浜が取り上げられており、百合が浜の知名度が極端に高いが、与論には他にも素晴らしい観光資源がある。メディアはあくまで観光客に与論へ足を運んでもらうきっかけとして活用すべきである。与論の観光業のためには、メディアをきっかけに興味を持った観光客に様々な与論の魅力を届けなければならぬ。観光客に一部の名所だけでなくあらゆる魅力を知ってもらい、何度も足を運んでもらえるようにすることが重要であると考え。例えば、情報提供の方法としてSNSやインターネットがある。現在、与論ではSNSに対する取り組みが充実しており、得られる情報も多い。しかし、与論の公式のホームページをよく見ると情報が古いものが見かけられる。観光客が必要とするのは最新の情報である。また、SNSでの情報だけでは発信者の年齢層の偏りや伝え方の違いがある。したがって、与論島の人々が最新の情報を公開していくこと、足りない情報を補っていくことが必要となる。このような取り組みにより与論島の魅力を知った観光客が与論島に足を運ぶ機会を増やすことができると考える。

2つ目に、果樹栽培の拡大である。与論島の観光資源には、温暖な気候を利用したマンゴーやドラゴンフルーツ、アテモヤなどの本土ではあまり見ない果実がある。そこで観光農園で観光客が熱帯フルーツを収穫し、そのままかじったり、ジュースや簡単なパフェを観光客自身で作って食べたりできるようにすることを提案する。島には果樹を栽培する農園は存在するが、このような取り組みはあまりないのではないのだろうか。日本でこれらの果物を収穫してすぐに食べることでできる機会はめったにない。近年、トロピカルフルーツはメディアで目にすることが多く、関連商品も増えて以前よりもその果物について知る人は多い。島でも観光の目玉の一つとして取りあげているのだから、観光客がとれたて

を口にする機会を増やし観光業と農業を双方から盛り立てていくべきだと考える。しかし、果樹は栽培コストがかかり安定性がない。この問題を解決するために、トロピカルフルーツの研究の場を提供して研究者と提携していくことを提案する。トロピカルフルーツは観光資源としてさらに活用していくべきだと考える。

3つ目に、若者の働き口を増やすことである。与論島では少子高齢化が急速に進んでいる。活性化には若い世代の力は必要不可欠である。現在、与論島には産婦人科医がいないためほとんどの妊婦は島外で出産する。そのため、与論に在住する妊婦の出産や里帰り出産にも手厚い手当が採用されている。しかし、更に大切なのは若い世代が安定した生活を送れることである。里帰り出産をした母親や I ターンの若者や夫婦、家族を迎え入れようとしても雇用先がなければ若い世代は生活をしていけないのである。したがって、少子高齢化を食い止めるためには若者の雇用先が必要である。講義での話によると、現在の雇用先といえば、役場、農協、情報関係で非常に数が少ない。そこで私は、幅広い食品を扱う食品加工の会社を立ち上げることを提案する。若い世代ならではの意見を取り入れた加工食品づくりや今までに活用されなかった食材の加工を行う。加工すれば島外への販売が可能になる。加えて、従来無駄になっていた食材から利益を生み出すこともでき、雇用創出だけでなく島の経済の活性化にもつながると考える。

私が考えたのはこの3つである。このほかにも与論の活性化のために様々な視点の取り組みを行うことが大切である。与論は離島でできることに制限はあるが、活性化に向けての取り組みはすでに行われている。今後も活性化に向けての取り組みが行われることで、島内の人々にとっても、島外の人にとってもさらに魅力的な島になっていくと考えられる。